

ファジー理論を使った音楽 データベース

森沢 恵史
東洋大学

1. はじめに

一
れの夕か 1 一でうてたこいる。譜りつのでて
ベわムーま。デしいえし。暗あ線まよるし希る。
タなテデ大る号表と考奏るかで五つにき対のい
一行スたはい記を夕と演あとのに、とでに一て
デがシし樂てる程一タにでるものいこがけザし
た発たと音つい音デ一際報あな体なると分一と
つ開つ素 持てや号デ実情で的具はすこりユ的
使究い要。をれボ記的を性曲詞はで折く振、目
を研うをた報かんた数楽感い容報け解導のしを
論くそ報み情書テま、音るる形情わをを公用の
理多は情てのには。的は取明た性る夕報は利用る
一数で樂し類どれる量つじはつ感い一情でをす
ジはこ音成種なこあの1感といのてデ性こ論出
アムこて作2譜、で種うが報とこれ号感こ理抽
フテ、しをて線りの一も人情る、か記の。一を
在スるとスケ五あもで。に性あし書の者るジ曲
現シい用一分はでるといき感でかに述後アる
スて応べにつ夕いこよとの曲し上前てでフす

2. システム概要

(イ) メンバーシップ関数決定課程

まず、データとしては

ア. テンポ (曲を演奏する早さを示す数字)

イ. 音の割合 (その曲にてて来る各音の出現類度)

ウ. 音のばらつき（音と音とのひらき 見合い）

エ. 音符の数 (三十二分音符を最短とした各音符の出現頻度)

(口) システム構成

このシステム構成としては、2つの部分に分けることができる。1つは曲の分

入変係横まる。いる音つづじる。れると～。れるタが多関のつあをあ、4一あら明素1する。夕で相数軸で曲でボのメだけの要ります。あ一素た関縦けらのン数イの分ル索暗い望。でデ要きブるわかくテのすもりベ換3て希る。分曲タてッするジお、符わる振レ。～しのなる部ずーでシ応まーては音表とにする。1をザに検索まで一対決メし析、ををかすで通方一と検、たしバにがイ類解きさ関つ望分普けユこははべ。そんれジた分量つる相く希部、わ、出すつで述、メそーれに変ら明のいがす3なら出1分でうた、メラル多ばととはザ出へうかきう部上なめめイめベうのタルで一き1よル抜も類と行求はの求しな音一ベ分ユ抜いたべ部分のれ析上当のしかで合量夕索か曲明い各の部曲解をにそつこ割数一換曲のてとのル力量数軸りそくこののデたさし3こベ

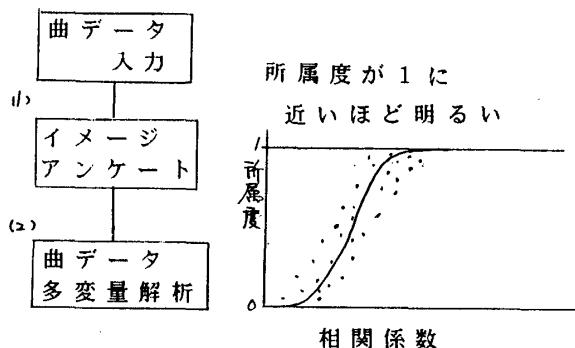


圖1. 曲分量70-

圖2. 所屬度閾數曲線

5. まとめ

所力分徹ろに入い特いう時をなうるよ索夕行いする換一をと関すてデ析いに類しく分早楽分となジが音て徵は一間とれ特でメ時つ入のイ索よりもムるの検は取。テす曲、後をい。ス算にで今素たシ計きの。要きこ度たすあろて属し類がいし